

目次

口 絵

刊行のことば

監修のことば

まえがき

凡 例

上田市誌刊行会長 上田市長 平尾 哲 男
東京大学教授 文学博士 佐藤 信

はじめに 1

第一章 身分制社会と被差別部落

第一節 身分の世の中 5

一 上田城下町絵図 5

江戸時代の上田城下町 侍町をみる 灰色に塗られた町

二 庶民と武士 7

朧夜の出来事から 武士への慮外禁止

第二節 被差別部落の成立と役割 …………… 11

一 「かわた」から「えた」へ …………… 11

真田信之時代の毛付帳 かわた頭小十郎 かわたの身分化

二 かわたの役割 …………… 13

延宝の飢饉と施粥 元禄の飢饉と非人 非人の取置き

三 盗賊をめぐる動き …………… 14

延宝・貞享の盗難事件 盗人への対応 火付盗賊改の設置 上田藩の盗賊対策

四 かわたの組織化 …………… 17

かわた頭役の世襲化 元禄十二年の「御改之御帳」 領内かわたの組織 宝永三年の領内村々明細帳

第三節 被差別部落の活動と変動 …………… 20

一 役割の拡大と分担 …………… 20

町や村での役割 「長吏」の仕事 盗人の縄取 心中の取り扱い 部落の役儀・三役

二 取り締まりの強化 …………… 23

正徳五年の改帳 享保十一年の取り調べ 寛保三年の取り締まり

三 内部の変動 …………… 25

寛保二年の大変 文化元年の仲間騒動 文政六年の赤房論 天保十三年の徒党・逃散

四 幕末期の活動 …………… 28

部落の茶屋みせ 浪人などの追い立て 和宮一行の通過 桑畑を見廻る

五 江戸時代の庶民意識 …………… 30

「只今は御慈悲の世にて」 「其節後悔致さず候よう」

第二章 近代社会と部落解放

第一節 明治と被差別部落

一 解放令と被差別部落

(1) 解放令布告のころ

解放令の布告 名字と戸籍 牛馬の飼育数と部落の役割

(2) 宗教の中に残る差別

服喪と神仏分離 白山信仰と部落 差別的な戒名

二 明治十八、九年ころの苦しい生活

人力車の「稼業願」「貧困者」の調査 税金の滞納 生活難渋の不就学

第二節 解放運動の組織化とひろがり

一 運動の組織化に向けて

(1) 信濃同仁会

信濃同仁会の創立 信濃同仁会第二回総会 会計からみた同仁会の活動 初期の改善事業

(2) 小県水平社

小県水平社の結成 水平社運動をめぐって

二 運動のひろがり

(1) 農民自治会と水平社

農民自治会の結成 自治運動と水平社運動

(2) 信濃同仁会の組織強化

中堅指導者講習会 青年連盟の結成

(3) 融和条項・山林問題の解決 48

融和条項を提出して解決 山林問題批判で演説会を開く

(4) 解放運動と糾弾 50

水平社の徹底的糾弾 水平社運動のひろがりと停滞 信濃同仁会の合理的糾弾

第三節 戦争と解放運動 53

一 日中戦争前後の解放運動 53

(1) 日中戦争前後の農村部落 53

部落の少女が製糸工場へ 昭和九年の実態調査の結果 昭和十八年の部落の農業

部落経済問題と融和運動

(2) 改善運動 56

地方改善の応急施設事業

(3) 農村経済更生運動と融和運動 57

更生実行組合生まれる 暁少年団の精励 融和事業完成一〇か年計画

二 太平洋戦争下の解放運動 59

(1) 戦時体制への移行と部落 59

農村更生運動その後 融和事業一〇か年計画その後 満州移民の取り組み 部落と満州移民

(2) 新機構による融和事業の推進 61

長野県同仁会の設立をめくって 融和運動「要綱」の改訂 県水平社創立一五周年大会

(3) 戦時下の解放運動 63

水平社の解散意見 全国水平社最後の大会 水平社の消滅 同和奉公会の発足

第三章 昭和戦後の人権確立の動き

第一節 部落解放の取り組み

一 部落解放運動の台頭

長野県での取り組み 上田市の部落解放運動

二 部落解放行政

県での取り組み 合併前町村の同和行政 もう一つの村の同和行政 上田市の同和行政

三 部落解放学習

上田松尾高校社会科学クラブの活動 上田染谷丘高校部落解放研究会

第二節 部落差別の実態

一 嫁ぎ先の差別に死の抗議

結婚差別事件の統計 結婚までの経過 興信所の調査書届く 自殺までの経過

運動体・行政の抗議行動 裁判闘争へ 判決

二 自治会隣組編成の中での差別―自治会総会で解決―

不自然な班編成の告発 自治会総会での取り組み

三 字の区域の名称の変更について―市議会の決議―

周囲とかけ離れた地番字名 上田市が改正を約束

四 企業内での差別事件―糾弾集会開かれる―

事件の経過 事件の背景 人権回復への道

第三節 同和行政の展開

一 同和对策措置法と人権確立の動き

(1) 社会教化審議会から部落解放審議会への移行

行政から市議会に提案 満場一致で可決

(2) 同和对策事業推進委員会の設置

市民総力をあげて同和问题解決へ 事業の反省と新たな事業計画

(3) 同和对策課の設置

(4) 同和教育課の新設

(5) 市民運動の展開

初めての市民集会 第一回部落差別をなくす市民大行動

(6) 同和对策集会所で成人学級

同和对策集会所完成 集会所で何をしたらよいか 講座が始まる 私たちのムラの歴史を書く

二 環境改善事業

実態的差別の解消 地区道路等の整備 住宅対策 墓地の整備と差別戒名

三 地域活動センターの完成

塩田解放会館 城南解放会館 中央解放会館

第四節 関係機関での同和问题の取り組み

一 上田市企業同和教育推進連絡協議会の結成―企業で―

発足の経過 結成総会開催

二 「部落差別をなくす上田市人権啓発推進委員会」―市民レベルで―

発足の経過 設立総会 活動状況

三 「上田市差別撤廃と人権擁護に関する条例」の制定―行政で―	98
法律の延長と条例の制定	

第四章 国際理解と福祉

第一節 国際化の進展と外国人の人権	101
-------------------	-----

一 国際化の進展	101
----------	-----

統計からみた外国人の推移	国際交流の取り組み	国際交流担当の職員配置
--------------	-----------	-------------

市民レベルでの国際交流活動

コラム・東信地区在日朝鮮人の人権を守る会結成

コラム・外国人労働者の人権問題 赤坂建設の取り組み

第二節 福祉と人権	106
-----------	-----

一 福祉行政の推進	106
-----------	-----

福祉行政の現況 子どもの成長を守る環境づくり 高齢化社会における老人福祉

心身障害者福祉の現況 点字図書館の開館と利用者

二 上田市社会福祉協議会の活動	109
-----------------	-----

住民主体の活動 ボランティア活動の取り組み

コラム・「ふれあいと感動」を私たちに…長野パラリンピック聖火リレー…

コラム・石井基金による盲導犬貸与事業

第五章 女性と「家」——近世から近代へ——

第一節 結婚と離婚 ——近世—— 115

一 結婚の成立と縁女送り書…………… 115

縁女送り書と送り返書 執持人と鉄漿親 番所を通る女房たち 下女を連れての嫁入り

二 結婚年齢と通婚圏…………… 118

女たちの結婚年齢 通婚圏とその変化

三 許されない結婚（相対死）…………… 120

ひとり娘と総領息子

四 離縁の形態と離婚率…………… 121

不縁送り書 多かった離婚 夫の病死による離縁 再婚の夫が病死継子からの離縁

夫の兄と再婚した女 夫の欠落で実家に戻る女房

五 妻からの離縁願ひ…………… 124

侍屋敷への駆け込み訴え 妻の着物を無断質入れした夫 暴力ふるう婿を離縁した女房

六 後家と家…………… 128

後家の役割と相続 女戸主になった家付き娘 後家の離縁と財産分与 孤独なひとり暮らしの後家たち

第二節 家事と育児 ——近世から近代へ—— 131

一 江戸時代、農家の女たち…………… 131

一之沢農家の女房 越戸村井沢家の女たち 春蚕・夏蚕秋の取入れ 食料の保存 女の仕事と家事・育児

二 農繁期に開かれた託児所…………… 134

養蚕農家の育兒と子守 塩尻村に託児所開設 浦里村の公営託児所 託児所開設に難問
託児所の子どもたち
常設保育所と無認可託児所
上田明照会の甘露園 長時間保育と無認可保育所
二節 女たちの生きざま ―近世―
一 孝女として表彰された女たち
孝女表彰の意義と『孝民伝』 母の願いをかなえた善光寺参詣 父を助け穀屋を手伝う娘
老いた母の介護で生涯を終える 再婚もせずに家と子に尽くす母
さからう女たち
家長の兄に背き訴えられた母と妹 家出を繰り返し別居を願った嫁 夫と子を捨て逃げた女
村と家を捨て無宿となった女
三 江戸後期を迎えて
男たちとたわぶれる 続く駆込訴 踊への参加 芸能に生きる 絹の着物を着る
地場産業の先頭に立つ
コラム・江戸時代の刑罰（庶民の場合） 仕置 付加刑 上田藩の仕置

第六章 女性の教育と労働―近世から近代・現代へ―

第一節 学ぶ女たち——近世から近代・現代へ——

[illegible]

二	『女今川』とその周辺……………	158
	河内山寅の学習歴 心得なくては叶わぬ事なり 紅・白粉は女の嗜み 産前・産後のころえ	
三	不就学女児たち……………	162
	低かった女兒の就学率 子守学校の設置 「ボロかくし」の改良服 裁縫科設置で就学率向上	
四	良妻賢母の教育と女学生……………	164
	教育勅語と女子の務め 高等女学校の良妻賢母教育 女子の高等教育に疑問 地域の要望による実業補習学校	
五	産業教育を受ける……………	166
	女子を対象とした蚕業教育 人気が高かった鑑別手	
六	教師をめざす……………	167
	保母養成の上田保母伝習所 女教師が増加する	
七	上田女子技芸学校……………	168
	信濃教育会が裁縫教育改善 鎌原に女子技芸学校 ミシンの使用方法も習う 雛型裁縫を導入 裁縫教授法の講習会も開催	
八	上田女子短期大学の創立……………	171
	創立から国文科増設まで 建学の理念と教育目標 コース制の導入	
第二節	働く女たち — 近世から近代へ —……………	173
一	奉公する女たち……………	173
	質物となった女たち 舞田村の下女たち かいたすけ 季節雇いや日雇いの増加	
二	遊女になった女たち……………	176
	飯売奉公の女たち 飯売奉公で殺された女 炊事奉公から逃げ帰った女	
三	伊勢山村の梓神子（巫女）……………	178

神事舞太夫と梓神子たちの旅立ち	180
四 近代産業への貢献	180
(1) 製糸工女	180
器械製糸常田館の創業	180
工女生活の一日	180
永年勤続者と模範養成工	180
年ごろの娘は製糸工女に	180
人権無視の工女登録制度	180
(2) 電話交換手	182
電話交換業務の開始	182
電話交換手の仕事	182
交換手の給料と休日	182
採用方針に不満続出	182
福利厚生の改善	182
五 保健・医療に携わる	184
(1) 産婆（助産婦）	184
産婆制度の整備	184
出産支援の巡回産婆	184
多忙な助産業	184
生活・育児指導も産婆の仕事	184
受胎調節の実地指導	184
共同助産院の開設	184
(2) 医師	187
女医への狭き門	187
女医という職業の選択と苦勞	187
六 教育現場での活躍	188
(1) 女教師	188
女教師のさきがけ	188
島木赤彦の女教師批判	188
明治・大正期の女教師	188
ある女教師のあゆみ	188
七 農村に生きる	191
(1) 蚕種屋の主婦	191
蚕種・養蚕業と女性の「理想」	191
蚕種屋の主婦の働き	191
農閑期の仕事と娯楽	191
コラム・女性の髪型の変遷	191

第七章 地域と女性たち―近代・現代―

第一節 地域と女性たち ―明治・大正期―

一 花柳界の盛衰と廃娼運動

遊廓の設置と娼妓たち

貸座敷樓の売り上げと税金

「豆」と呼ばれた女の子

待遇改善を要求した酌婦たち

花街の芸妓参詣デモ

廃娼運動と遊廓の衰退

二 上田婦人談話会

上田婦人談話会の成立

女子手工部の設置

困難となった会の運営

慈善演芸会開催

三 女教師の活動（一）

活発な女教員たちの協議

小県上田女教員会の研修

四 愛国婦人会

慈善の心に富む女子

小県愛国婦人会第二回総会

上田での加入状況

大日本婦人会に統合

五 地域婦人会（一）

明治三十年代に結成

ある婦人会のリーダー

（表）地域婦人会設立状況

六 処女会

婦人会を母体に誕生

婦人会・処女会幹部協議会開催

双葉会の誕生

東京の指導者講習会に参加

多彩な事業を実施

昭和三年度双葉会予算

コラム・「明治・大正期の物価」

第二節 地域と女性たち ―昭和期―

一 女教師の活動（二）

給料男女差別撤廃運動 婦人部存続をめざして

二 女子青年団……………215

国・県が設置奨励 上田女子青年団創立 処女会の公娼廃止請願署名 女青の十年度予算と事業

「上田市連合女青」の発足 勤労報告隊として出動

三 上田実践婦人会……………217

生活改善をめざす 一市三郡の女性が懇談 違反するのは非常な恥辱 リーダー早川むめ

市議会に女性議員を

四 地域婦人会（二）……………220

国防婦人会神川分会 金属回収と物資供出 疎開学童を慰問 上田市連合婦人会

第一〇回連婦研修会 会員の減少傾向につく 塩田婦人会結成 地元選出市議会議員と懇談会

特養ホームで奉仕活動 婦人検診車の巡回を実現 別所線存続運動に共同歩調 バス停と駅に有線電話

執筆分担

資料提供者・協力者

参考文献

あとがき

上田市誌の編さん組織

『上田市誌』全三二冊の編成と書名

表紙写真 右 明治四十五年（一九一二）三月、上田高等女学

校本科第一一回卒業生（部分）

左 平成十一年（一九九九）、上田染谷丘高等学校

卒業記念（部分）

裏表紙写真 塩田解放会館（塩田公民館併設）昭和四十五年建設